

# 2021年度第1回町田市交通安全行動計画策定及び推進委員会議事録

2021年8月6日（金）

10時00分～11時00分

於：市庁舎3階会議室3-2、3-3

公開：傍聴人 なし

## 出席者（敬称略）

○委員： 清水、松本、増田、中原、村松、田中、鈴木、仲村、甲斐、原、  
佐野、安藤、佐々木、小島

○事務局：水越、山岡、高橋、青柳、松井

○オブザーバー：深澤、田代

## 会議次第

### 1 委員紹介

### 2 議題

#### （1）新・町田市交通安全行動計画について

ア 2021年度上半期の町田市内の交通事故発生状況について

イ 第10次東京都交通安全計画の結果及び町田市内の交通事故状況について

ウ 2017年度から2020年度の取組状況及び評価について

#### （2）「（仮称）第3次町田市交通安全行動計画」について

ア 第11次東京都交通安全計画の概要について

イ 町田市内の交通事故状況について

ウ 市民意識調査の結果について

エ 目標値及び施策について

#### （3）その他

## 1 委員紹介

委員・事務局自己紹介

## 2 議題

### (1) 新・町田市交通安全行動計画について

- ア 2021年度上半期の町田市内の交通事故発生状況について
  - イ 第10次東京都交通安全計画の結果及び町田市内の交通事故状況について
  - ウ 2017年度から2020年度の取組状況及び評価について
- 事務局から説明（資料2～6）

#### 【質問・意見】

なし

### (2) 「(仮称)第3次町田市交通安全行動計画」について

- ア 第11次東京都交通安全計画の概要について
  - イ 町田市内の交通事故状況について
  - ウ 市民意識調査の結果について
  - エ 目標値及び施策について
- 事務局から説明（資料7～13）

#### 【質問・意見】

<委員>

市民意識調査から交通ルールはある程度知っていることがわかったが、実際に行動できていないように見受けられる。こうした現象が交通事故に繋がっているのではないかと思う。目標値及び施策には交通安全学習の機会創出とあるが、あらゆる手段を講じて様々な世代に対していかに学習機会を創出するかが課題であると思う。また、全国交通安全運動を年間に春と秋の計2回行っているが、全国交通安全運動期間だけでなく、様々なイベントを行い、交通安全に触れる機会を創出する必要があるのではないかと思う。自動車の運転者に関しては、「だろう」運転ではなく、「かもしれない」運転を呼び掛けることで、交通事故及び交通死亡事故の減少につながると思う。そのために交通安全協会として警察や行政関係機関との連携を強化して啓発する必要がある。

<事務局>

年2回の全国交通安全運動期間中以外にも、2019年は様々な地域イベントに参加した。交通ルールを知っているが守らない人が多いことに加え、まだまだ交通ルールを知らない人も多いため、ご意見のとおり交通ルールを知る機会を作っていきたい。

<委員>

交通事故関連は、テレビや新聞などでの報道が少ない。大きな交通事故が発生すると報道され、意識することが多いが、少し経つと忘れてしまう。毎日、交通安全について触れる機会を創出するため、テレビ等で周知することも必要ではないか。

<事務局>

様々なメディアで周知等を行えたらよい。皆様の口コミも効果がある為、皆様のご協力もよろしくお願い致したい。

<委員長>

若者はあまりテレビを見ないという現状があり、SNSやネットで情報を得ている。それに対し、中高年の世代はテレビで情報を得ている。その為、様々な広報媒体を活用して情報を発信する必要はあると思う。また、新型コロナウイルス感染症のニュースを毎日のように見ていると、気持ちが減入ってしまうなど、毎日情報を出して効果的なものとそうでないものがあるように思う。そのため、情報を発信する間隔を工夫して定期的に情報やルールを、様々な方法を駆使して発信すると良いと思う。

<副委員長>

3年前に交通事故に遭ったが、今ではその恐怖が薄れてしまっている。恐怖心が無くなると、少し危ない行動への警戒心が薄れてしまう。そのため、定期的に交通安全についてインプットが必要である。アクションを止めないことが重要である。

<委員長>

事務局から説明があった次期計画の方針と骨子に対して、皆さんに確認いただき、意見や考えを伺いたいのので、確認のポイントを説明する。資料11を見ていただきたい。まずは「目標値」である。今までやってきたことで交通事故は減少している。このまま続けていけば、交通事故は8%減少させることができる。市民の力が必要となる「人づくり」の観点でプラスアルファの取組を見出すことで、2%上乗せして交通事故10%減を目標とする。目標を達成するために「具体的に何をやるか」を2022年度から2026年度までの5年間で考えていく。これを踏まえて感想等を伺いたい。

<委員>

教育だけでは行動につながらないと思う。交通安全に必要なことは、人に対する「思いやり」や「優しさ」であると感じる。そうした精神的なものをどうやったら伝えることができるかを考える必要がある。特に大人に対して「思いやり」等の大切さを伝える対策をやった方がよい。

<委員>

主婦の方が運転する自転車と高齢者の交通マナーが良くないと思う。中学生くらいの方は、よく交通ルールやマナーを守っていると思う。これは、各中学校で行っている、スタントマンが

交通事故再現をする交通安全教室が、効果的であるからだと考える。この交通安全教室に PTA に参加していただければ、主婦の方が学ぶ機会を創出することができると思う。また、自転車に乗っている人が、歩行者と同様に優先順位が高いと思って乗車していることが多いように感じる。こうした認識を改めてもらえるような取組をする必要があると思う。あと、被害者側の過失も問題であるとも思う。交通事故は加害者側のことをマスコミ等で多く取り上げられるが、交通事故の発生には被害者側にも問題があるように思う。最後に、アクセルとブレーキの踏み間違いの事故が多発している件だが、簡単に運転することができるオートマチックの自動車を運転する人が多いことも要因であると感じる。そのため、高齢者にはマニュアルの自動車を運転させることで、アクセルとブレーキの踏み間違いが少なくなるのではないかと思う。

#### <委員>

スタントマンによる交通事故再現を実際に見る授業を、3年に1度行っている。生徒からは、「本当に怖かった」、「運転手の方の視点が良く分かった」という感想があった。このように自転車の運転手の視点だけでなく、自動車の運転手からの視点を理解することができる授業であり、とても効果的である。中学生は昨今、SNS等を通じて情報を得ることが多いことから、動画等での啓発をすることもよいと思う。ただし、実際に体験型の教室を行うことが重要であると考えている。新型コロナウイルスが流行している中で、体験型の教室を行うことができない場合でも、工夫して授業を行う必要があると思う。中学生は1人1台タブレットを配布されているため、タブレットを活用して問題に回答しながら交通安全について学び、分からないことを「見える化」してもよいと思う。また、以前はPTAをスタントマンによる交通事故再現の授業に呼んだこともあった。その際はPTAの反応がとても良かった。地域の皆さまやPTAに対しても広く周知してたくさんの方を交通安全教室に呼ぶと良いと思う。

#### <委員長>

スタントマンによる交通事故再現、いわゆる「スケアード・ストレイト」については以前から活用方法について議論してきた。保護者は平日の昼間に参加することが難しい現状もある。その為、子どもが通学している学区だけでなく、他の学区の保護者が参加できるようにする等、柔軟に対応できると良い。

#### <委員>

警察に聞いたことがあるが、バイクでカーブをどのくらいのスピードで曲がれるかの競争をする人がいるという。また、歩行者側が自動車は当然に止まってくれると考える人が多い。交通事故の原因はこのような小さいことの積み重ねが原因となっているように感じる。

#### <委員長>

暴走系のは警察による取り締まりが必要であると感じる。また、道路交通法は、自動車の運転手が少なかった頃にできたものであるため、自動車の運転手側が道路上の全てのことに気をつけなければならないようなものになっている。免許を取る際に交通ルールを学ぶが、自動

車の免許を取らない人も増えてきているため、交通安全教育が行き届いていない人も多い。こうした人への対策も考えなければならない。

<委員>

最後に、前回の会議でも発言したが、路線別に交通事故が多いところを見ると圧倒的に町田街道が多くなっている。なぜ多いのかをそれなりに要因があるはずだ。交通事故の内容を分析することで交通事故の要因を解明できるのではないかと思う。警察に申し上げたいのだが、是非、路線別、特に町田街道の交通事故を分析していただきたい。それにより、町田街道の交通事故を減らす対策が見えてくると思う。

<委員長>

他に何かあるか。

【質問・意見】

なし

<委員長>

最後に計画の策定にあたり、目標、成果、施策などについて、資料11のとおりに進めてもよいか委員の皆さまに確認したい。異論はないか。

【質問・異論】

なし

(3) その他

<事務局>

次回の委員会は2021年10月頃の開催を予定している。

閉 会